



実践団体情報

記入日	2019年12月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
代表者名	校長 若松 悠紀子
プラン全体のタイトル	わくわく防災減災—毎日, 学校で防災について考えてみた。1から分かる! 学校の日常に防災教育を入れるコツと, 生徒が活躍できる地域連携のススメ
電話番号	(03) 3416-1150
メールアドレス	
実践団体の説明	中高一貫の私立女子校で所在地は世田谷区(併設小学校は目黒区)。「被災地ボランティア研修」(2012年~@宮城)での学びがきっかけとなり, 2015年から学校内及び地域での防災教育・防災活動に取り組み始めた。防災教育を学校の特色の一つと位置づけ, 様々な活動を展開している。特に「東京の私立女子校」という特性を活かした実践と災害時のトイレ問題の取り組みが特徴的である。防災を軸とした地域との連携も広げており, 区と乳幼児と妊産婦を受け入れる「福祉避難所(母子)」の協定を結んでいる。
所属メンバー	校長 若松 悠紀子
活動地域	東京都内(世田谷区を中心とした都内各地), 宮城県(石巻市・塩釜市・仙台市・東松島市・山元町・亘理町), 熊本県(熊本市)
活動開始時期・結成時期	2012年(被災地研修開始) / 2015年(防災教育開始)
過去の活動履歴・受賞歴	2015年度・2016年度学校防災力向上事業参加(日本トイレ研究所・世田谷区のプロジェクトに協力), 国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」に事例として掲載(2015年度版 p.49, 2018年度版 p.50), 2017年度防災甲子園 フロンティア賞受賞, 2017年度ボランティア・スピリット・アワード コミュニティ賞受賞, 2018年度防災教育チャレンジプラン 防災教育特別賞受賞



プラン全体の概要

防災教育が浸透しない理由として「多忙を極める学校現場で、教員の知識や技能が不十分」であることが、しばしば指摘されるが、なぜ本校では防災教育が実現できているのか。理由はとてもシンプルで、教員も生徒も「やりたいから」である。ただし、生徒がやる気を出す仕掛けや、教員がやる気を維持する工夫が必要となる。生徒が防災の主役になる実践を通じて、防災教育の魅力を高めたい。

◎**隙あらば防災**「どうすれば防災に繋がられるか」を常に考えながら、学校生活を送っていると、色々なチャンスが見つかる。「防災を教える」だけでなく「防災『で』教える」が必要だ。防災教育をすれば、簡単に生徒が変わる訳ではない。本校の生徒の意識や行動を変えたのは「ちょっとした工夫」や「日常の小さな声かけ」の積み重ねも大きい。試行錯誤や小さな工夫も、報告・共有していきたい。

◎**防災意識を高めるから「防災あたり前感覚を育む」**

「中高時代は防災に対する『あたり前感覚』をつける時期」と捉えている。生徒は災害と同一視し、防災にネガティブな印象を持っているので、ポジティブに変えるには、「防災＝未来の命を救うボランティア」の位置付けが効果的だ。さらに一時、教員が張り切るあまり生徒に「防災依存心」が生まれるという矛盾が生じた。生徒に行う防災教育と、学校としてすべき災害対策は別、と認識を改め、教えるから「引き出す」防災教育へ転換を図ったところ、より効果的に主体的に行動する態度が育つようになった。

◎**直面した台風 19 号**

今年度の特筆すべき特色としては、水害に重点を置いたプランを展開していたところ、台風 19 号に直面した。

▽**「実践したプランの内容と成果の報告」の内容**

情報整理術、授業実践（教科単独/教科横断）、他校との連携、地域との連携、校外・被災地での防災学習、防災講演会、災害時のトイレ問題、訓練、教職員研修、日常の工夫



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間の授業構想を練る・ 7月被災地研修企画開始	授業づくり及び連携先(学 外)との打ち合わせ ⇒ 年間 を通じコンスタントに継続	授業実践 ⇒ 年間を通じて実施 (社会・ 理科・国語・家庭科など)
5月	防災訓練の企画開始	被災地研修下見@宮城	調理実習・言語カウイク・ 修学旅行@熊本県
6月	社会科見学の企画開始	防災訓練リハーサル	地域連携授業・訓練・アンケ ート実施・青少年赤十字研修
7月	教職員研修の企画開始	被災地研修事前学習・ 社会科見学の打ち合わせ	第16回被災地ボランティア 研修@宮城県
8月	3月被災地研修企画開始	被災地研修下見@宮城	教職員対象研修・ポスター
9月	社会科見学の授業構想	水害についての情報収集	ミニ避難訓練
10月	教科横断型授業の担当者 打ち合わせ	地域イベント打ち合わせ・ 台風19号対応	講演会・ワークショップ・ 「避難」について考える
11月	教職員研修の調整	イベント打ち合わせ・ 資料作成・プレゼン準備	携帯トイレ作成・講演会・ 社会科見学@防災科研
12月	被災地研修の企画再開	被災地研修下見	教科横断型授業・私学教職員 対象研修会・地域イベント
1月	復興支援イベントの生徒 プロジェクトチーム結成	年間活動のまとめ作成・ 追悼イベント書道作品作成	留学生授業・炊き出し・ 被災地研修校内報告会
2月	携帯用防災グッズの検討	被災地研修下見	母子避難所訓練への参加
3月	来年度に向けての立案	イベント開催準備・ 被災地研修事前準備	復興支援イベント@池袋・ 第17回被災地研修@宮城県

プラン全体の反省点・課題・感想	生徒が成長する防災教育の魅力にワクワクしながら、さら に実践を重ね、校内外での取り組みや連携が広がった。一 方で新しい取り組みの準備に時間がかかり、プラン実施に 追われていたので、計画性・効率性も意識していきたい。
今後の活動予定	学校現場で活用しやすい実践事例・クロスカリキュラムを 楽しく開発すると共に、防災教育の魅力を広めたい。